

冬^{ふゆ} 旱^{ひでり}

河村郁子

冬ひでり続く境内しんかんと寒の日和を如何にかもせむ

本堂の屋根の緑青に冬陽差しいざや炎の立ちゆくらしも

菩提樹の枝に残れる枯れし苞落つるともなく風に揺れるる

わが愛づる公孫樹^{いちやうぎ}四十四メートル冬の木立に姿たんれい

木下より冬青空を見上ぐるに網模様なす枝の造形

根方には黄葉銀杏の片もなく乾土あらはに掃き清めらる

奥の院に向ふ参道に並^なむ梅の枝に百蕾^{ひやくらい} 春は隣れり

奥まりて垣の内なる〈姿見の井戸〉はひたすら寒雨乞ふらむ

羅漢像の供花それぞれ冬ざれの色を保てる景の侘しさ

南大門に礼なすまぎはに陽だまりの梅の古木に一輪の白